

第3回 四條畷市田原活性化対策本部会議 概要

日時：平成30年3月28日（水） 午後7時～午後9時20分

場所：四條畷市立グリーンホール田原1階 なるなるホール

出席者（敬称略）

相談役：上田原区長、下田原区長、緑風台区長、田原台三丁目自治会長

本部委員：21人

東 修平、旭 恵美里、岩城 令子、大橋 秀樹、奥田 進久、奥村 博、
相良 佐知子、谷 秀夫、内藤 壽、中西 洋右、西川 益美、平松 茂、
寶谷 敏男、前原 園代、南佐 幸子、森川 陽子、森田 祥彦、安田 成弘、
山本 敏秀、笹田 耕司、開 康成

事務局：3人 塩見、森田、楠

傍聴者：4人

本部長挨拶

議事1 平成30年度予算措置について

(1) 予算概要の説明

(2) 市民提案型イベントのルールづくり（内容、審査基準等）

議事2 中長期的課題について

(1) 課題の優先及び視察先の選定

議事3 その他

本部長挨拶

本部長： 3月議会において市民中心のまちづくりを推進していく平成30年度の予算を全会一致でご可決いただきました。予算のうち田原活性化についての予算概要はこの後に支所長から説明します。

本日の第3回会議は、予算化された内容の今後の進め方、中長期的なまちづくりを行っていくため、先進事例の視察先をご議論していただきます。限られた時間ではございますが、有意義な時間となるようよろしくお願いいたします。

事務局： 本日の進め方について説明いたします。平成30年度予算措置の概要説明を行った後、市民提案型イベントのルールづくりについて、事前に配布した要綱案をもとに議論していただきます。その後、本部長と意見交換を行い、議論の内容をもとに、支所にて市民提案型イベントの要綱を作成いたします。

次に中長期的課題に向け、近隣の先進事例の候補地の絞込みを班単位で議論し、

班発表を行っていただきます。発表後、本部長を交えた意見交換を行い、発表された意見をもとに田原支所において視察地の選定してまいります。

1 平成30年度予算措置について

(1) 予算概要の説明

支所長： 短期的課題を解消するため平成30年度の予算要求にあたり平成29年度に実施した、窓口アンケート、日々の暮らしのアンケート、地域懇談会及び対策本部会議での内容を整理し、いただいた多くの意見を踏まえ、財政部門と協議を行ってまいりました。

田原地域に関する施策としましては、活性化対策本部でも議論になりました「地域のニーズと活動団体をつなぐシステムの構築」として100万円の委託料を計上させていただきました。次に、「地域が主体となり異なる施策を関連付けて相乗効果を生む市民提案型事業」について8万円の報償費、「戎公園内の見通しの確保を目的とした中高木の伐採費用」を約100万円、中長期課題を解決するため、先進事例の視察に関する費用などを計上させていただきました。

四條畷市全体として取り組む内容としては、今より「暮らしやすいまち」とするための施策として公共交通の整備について、地域公共交通計画（素案）に基づき、平成30年度には、実証運行及びその検証を行い、31年度に、地域公共交通計画を取りまとめ、32年度の本格運行を予定しております。また、身近な公園施設については、市民との協働も視野に入れた、公園施設のあり方をソフト、ハードの両面により基本的な方向性を定め、平成31年度にはモデルケースの試行による効果検証を図っていきます。総合公園の今後の施設整備につきましては、四條畷市として大きな財政投資は行わず、民間活力の導入などを見据えた検討を進めていくこととしました。

また、空家対策については、空家をまちづくりの資源とし利活用を示す総合的な空家等対策推進計画を策定するとともに、住宅施策の方針を定める住宅マスタープランの見直しの開始を予定しています。

子育て・教育のまちに関する施策では、学校に通う児童の安全について、民間の見守りアプリを導入し、子ども達を犯罪や事故から守る取り組みを行います。

また、教職員が子どもたちとこれまで以上に向き合うことができるよう、校務の効率化をめざし出欠管理、成績処理、指導要録作成等が行える統合支援システムを田原小学校、田原中学校で試験導入いたします。その他には、英語教育の向上に努めていくため、小学生にGTEC受験助成に加え、外国人英語指導助手（ALT）の拡充、中学3年生への英語検定受験助成費用の継続など行っていきます。

なお、自治会が設置する防犯カメラの補助については、平成30年度においても前年度と同様の予算を確保したところがございます。以上が平成30年度予算概要の説明となります。

予算概要に対する質疑

委員： 地域のニーズと活動団体をつなぐシステムの構築としての100万円の委託料について説明願います。

支所長： 前回の活性化対策本部会議でも議論になりました。例えば、ボランティア活動を行っている方とそれを求めている方のニーズをマッチングさせるシステム構築のための予算でございます。ソフトウェアなどの活用については、今後の検討となります。

本部長： 補足になりますが、昨年度より発行している田原通信を活用し、地域の方々の活動を紹介させていただいています。しかし、子育て世代の多くの方々はSNSやウェブサイトでの情報交換が活発に行われています。その部分を整備するための制度設計にかかる予算措置でございます。具体については、この会議で委員の皆様の意見をいただきながら事務局を中心に我々で検討していく内容と考えています。

委員： 教育について、統合支援システムを田原小学校、田原中学校で試験導入するとありました。とても良いことだと思います。私からの提案ですが、学童保育（ふれあい教室）で、子どもたちに勉強を楽しんで教えるシステムを作れないでしょうか。そうすることで、中学校になって勉強についていけない子どもが減ると考えます。

本部長： これは教育委員会の範疇になるので支所長に代わり、私の立場からお答えします。報道等でよく耳にするように、市内全域においても小中学校の先生は業務に忙殺されています。

先生方が子ども達と向き合う時間をより多くとれるよう、校務支援システムを試行的に田原小中学校に導入し、検証を行い全市域に広めていこうとするものです。

教育委員会の見解を私の立場から申し述べると、児童・生徒学力向上3か年計画のもと取り組みを行っています。平成29年度は第2期の最終年度となり、平成30年度から新たな3か年が始まります。

そこでは、土曜フォローアップ教室の拡充など、いわゆる学力低位層の子どもたちの割合を減らす取り組みが行われます。今回のご意見は、中長期的課題を議論の中で田原地域の教育の在り方について議論を深めていきたいと思えます。

（2）市民提案型イベントのルールづくり（内容、審査基準等）

本部長： 次に市民提案型イベントの予算について議会で認めていただきました。このルールについて、この活性化対策本部で一定の議論を行いたいと思えます。地域のふれあいや交流賑わい等を創出していくことを目的に、平成30年度は田原地域のみで試行実施していくものです。この有効性が確かめられたら、市域全域を考えていきたいと思えます。異なる施策を関連付け、より幅広い効果が得られるよう、相乗効果を狙っていく趣旨がございます。事前に事務局から送付した素案をもとに、どうすれば使いやすい制度となるか、班ごとに改善点等を議論していただきます。

各班によるグループ討議（　　は行政職員）

1 班 岩城、大橋、内藤、西川、寶谷、南佐、笹田

2 班 旭、奥村、相良、中西、前原、森川、開

3 班 奥田、谷、森田、安田、山本、塩見

各班代表による検討内容の発表

- 1 班： 最初に事務局に対しての意見となりますが、会議に入る前に趣旨をしっかりと説明していただき理解してからの議論を行いたかったです。

次に、要綱内容では二つ以上の目的を持ったイベントを行うことは、相乗効果があっているのではないかと、これまでのイベントでは限定された人ばかりの参加ですが、2つの目的を持つことで交えなかった人たちが参加することにより交える効果があると考えます。あと補助金制度に関しても議論になりました。補助金制度は、時代や環境に応じて定期的に補助金の見直しを行っていくべきではないかと。それから、この制度の金額が2万円というのは、仕方がないですが、効果などをみて、検討してもらえればと思います。

本部長： ありがとうございます。本市では平成29年度より、補助金のあり方見直しを行っています。市民の皆様が、まちづくりをしていく上で、公募型補助金を目指すべきではないかと、意欲のある方が手を上げ、そこに対して補助が出る制度を見直していこうという考えで、NPO 法人の方や弁護士の方といった外部の方に審議会に入っただき、議論を進めているところです。

田原地域では、先駆けとなり、手を挙げた団体が効果的な事業を行っていただきたいと思えます。このような前提の部分を事前に説明できていれば、よかったですと思えます。続いて2班お願いします。

- 2 班： まず、事前に送られてきた書類が理解できなかつたうえ、15分での議論では、なかなか意見をまとめることが出来なかつたです。

2班では世代間交流の話がでました。今年度の田原小学校の卒業生は4クラスに対し新1年生は2クラスと聞いています。このことから判るように、どんどん子どもが少なくなり、地域の高齢化が進んでいます。独居老人の方や、引きこもりがちの方と子ども達と交流できるようなイベントが出来ればという意見が出ました。7月に予定されている「七夕まつり」は単なるお祭りだけではなく、子ども達と一緒に環境問題を考えるなど多方面に繋がるイベントになればと思っています。あと、個人でも申請できる仕組みづくりをしてもらいたいと考えます。

本部長： ありがとうございます。おっしゃっていただいた内容は、要綱案の第3条（2）に二つ以上の施策とあります。提案のあった七夕まつりは、まさに七夕のお祭りとして環境問題に加え、世代間交流などより広がりを見せていくのではないかとと思えます。

このイベントに多くの申請があった時に選考を行う条件の一つとして多くの世代が参加でき、交流できる内容のものを採用していくとの考え方は、今のご意見の中で反映出来るのではないかとと思えます。

次に個人での申請のお話ですが、この要綱で個人での申請はできるようになっています。しかし実際イベントを行うには、個人では限界があると思いますので、協力者を集めていただくことになるかと思います。次に3班お願いします。

3 班： あまり意見は出なかったですが、ひとつのイベントに対し上限2万円は額として少ないのではないか、その少ない額をどのように活かすかが議論になりました。イベントを実施しても人が来ないものに支出しても、無駄です。

年間4回で8万円の予算なので、イベントの参加実績に応じて配分すればどうか。汗をかき苦労した団体が報われる仕組みにすればどうでしょうか。

本部長： 謝礼額の2万円は確かに大きくはないと思います。委員から提案があった実績によってというところですが、イベントの参加人数を正確に測るのは物理的に難しいので、要綱の中で、提案の中で多くの事業目的を持ったイベントのアイデアによって配分されていく方法があると思います。

全体として各班からのご意見をどのように反映させていくのかを事務局で考え、実施に向けて進めてもらいたいと思います。

ここで一旦休憩に入ります。

～5分間の休憩～

2 中長期的課題について

(1) 課題の優先及び視察先の選定

本部長： それでは、会議を再開します。事務局から次の案件の説明願います。

事務局： ここからは、中長期課題に関する内容を議論します。事前にいただいた、委員の皆さまが考える中長期的課題に加え、アンケート等で複数の意見をいただいた「買い物」「交通」「医療」について、先進的に取り組む近隣市等の視察先の候補地の選定をご議論していただきます。

各班で課題の優先順位及び視察先の選定についてご議論していただき、その後、班発表の後、全体の意見交換を行っていただきます。以上です。

本部長： 本日、発表いただいた意見を事務局でとりまとめ、実際に委員の皆様はその場に行き、どのように田原に適応していけるのかを考えていきたいと思います。非常に大切な議論になってきますので、よろしくをお願いします。

各班によるグループ討議（____は行政職員）

1 班 岩城、大橋、内藤、西川、寶谷、南佐、笹田

2 班 旭、奥村、相良、中西、前原、森川、開

3 班 奥田、谷、森田、安田、山本、塩見

各班代表による検討内容の発表

- 2 班： 田原地域だけが活性化するのではなく、西部地域を巻き込み四條畷市全体が活性化するような仕組みづくりが必要と考えます。田原の農業は、高齢化が進み危機的状況にあります。田んぼがビニールハウスに変わっていく兆しがあります。農業による田原地域の活性化を考えます。例えば、西部地域の方に休日に農業を体験していただき、空き家を利用し食事や宿泊を行えるようにするなど、農業をきっかけに田原が活性化につながればよいと思います。

次に、医療に関して四條畷市を活性化することで田原地域を活性化できると考えます。2025年の大阪万博に向けて国や大阪府、関西の経済界も盛り上がっています。この期に乗じて田原地域に子どもに特化した先進医療センターの誘致の提案をします。何故なら、そこで働く職員の住宅が必要なので空き家対策になります。住む人が増えれば交通の便が良くなり商業施設の充実等、いろいろな効果があると考えます。

視察の候補地としては、吹田市の国立循環器病センター、大阪の国際がんセンターなどがよいと考えます。難病で苦しんでおられる方の一助になればと考えております。

次に、南山城村を紹介します。ここは高齢化が進み、村興しということで昨年道の駅をオープンしました。地場野菜や地域の産物の販売を行っています。ほかの委員の方が南山城村のマルチ交通も取り上げていました。過疎地ではありますが京都府が応援し取り組んでいるところです。そのほか紀の川市のデマンド型集合センター、泉北ニュータウンを候補地とします。いずれも高齢者が取り組んでいるところです。

次に少し遠いですが、金沢市のシェア金沢を推薦します。ここは、高齢者、障がい者、子ども、学生誰もが分け隔てない交流ができるまちづくりに取り組まれています。委員の皆様にもぜひ見てもらいたいです。

その他には日帰りは難しいと思いますが、高知県の池公園です。ここは土曜日限定でまちの活性化、オーガニックのマーケットがあります、四国中の方が集まるイベントをされています。食事が楽しめ、手作り作品の販売や演奏会などが行われています。

本部長： 市域全体を見据えた壮大なご意見をいただきました。行き先も金沢や高知など日帰りの枠にとらわれない思考で考えていただき素晴らしい発想だったと思います。次に1班お願いします。

1 班： 毎日の買い物に関する視察候補地として①東大阪市のワンコイン生活サポート②泉北ニュータウン③移動販売車に先進的に取り組む地域が出ました。そのほか、四條畷商店街からの搬送システムを構築すれば田原地域と四條畷商店街の双方が活性化するのはないかとの意見が出ました。

また、田原地域の交通手段を便利にするため交通についての視察を行いたい。具体的な地名は出なかったが、デマンドタクシーを取り入れている地域の視察し新たな交通手段としての参考にしたいと考えます。次に出たのは、神戸市住吉台のくるくるバスです。ここは、少し駅から離れた場所にあります。住民中心にコミュニティバスを立ち上げているので参考になるのではないかと思います。あと「あやバス」「たけまる号」が候補に挙がりました。

医療についての課題ですが、1種低層住宅地域にどのような医療機関が適応するのか、田原地域に似通った住環境のところを視察すればとの意見がありました。次に地域活性化に関する地域イベント、特色ある教育を行っているところを視察すればいいのではないかという2班での意見でした。

本部長： 西部地域の商店街を見据えた市内全域の活性化というお話だったかと思えます。

2班は農業の部分で地域活性化と先に挙げ、1班は買い物から順に挙げて下さったところが特徴かと思えます。次に3班お願いします。

3 班： 3班は、とりあえず先進団体の視察を1日で多く回りましょう！を掲げ話しました。お隣の大東市のデマンド型タクシー、生駒市のたけまる号や木津川市の加茂地域などの視察を行いたい。次に買い物については、洛西ニュータウン、高の原ニュータウン、千里ニュータウンがあります。いずれもUR都市開発が開発を行い成功しているところです。中心に商業施設などがあり、そこを中心に活性化しています。本来ならアカカベのところを中心に商業施設などを誘致し活性化すべきだと思います。同じURが開発した田原地域の参考になるのではないかと思います。

他には、西宮市のぐるっと生瀬を推薦します。公共交通機関とコミュニティバスを両立するバスです。料金も公共交通機関が成り立っていける料金となっている。市民の協力で収支比率が90パーセントで運営されています。このシステムについて田原地域でも参考になるのではないかと思います。

次に提案ですが、最近何でもシェアすることが流行になっています。シェアシティ（街を共有）してはどうでしょうか。お隣の生駒市は近畿圏でも人気のある街です。この生駒市の公共施設のサービスの一部を利用させてもらえないか。なぜなら田原の住民は生駒市に買い物や医療などでかなりお金を落としていますので、四條畷市から生駒市に働きかけてもらえないかと考えます。

本部長： 3班の意見も非常に壮大なご意見で「シェアシティ」という斬新なアイデアをいただきました。

時間の関係もありますが、ここで、各班からの意見の中で別の班への質問などはございませんか。なければ、今日の会議全体での発表の内容を踏まえ、地理的条件

も加え最終的に田原支所で視察先を検討したいと思います。

次の議題の前に本日の全体のお話をさせていただきます。市民参加型イベントについては本日いただいたご意見を踏まえ運用していきます。視察につきましては、ルートを決め、出来るだけたくさんの方が参加できるように、日程調整を行ってまいります。

第3回を経て明らかに委員の皆様への発表慣れされてきています。また傍聴に来ていただいている方も増えてきています。傍聴の方々はこの発表内容を地域で広げていただき、第4回ではお知り合いの方と一緒に傍聴に来ていただければと思っています。

その他案件について報告願います。

3 その他

次の3つの内容が報告、意見がなされた。

- (1) 田原支所長から第2回地域公共交通会議の内容についての報告
公共交通計画素案の状況
 - ① 田原地域と四条畷駅をつなぐコミュニティバスの見直し
 - ② 四条畷駅を起点としたコミュニティバスの見直し
 - ③ コミュニティバスを含む公共交通の利用促進
- (2) 委員から7月7日に開催を予定している七夕まつりの説明と協力要請
- (3) 委員から学力向上に特化した教育だけではなく、地域特色に応じた教育を推進して欲しい旨の意見

本部長： その他案件は終了しました。次回の会議では、実際に視察した場所、見たものを踏まえ田原地域でどのように適用していけるのかを次の会議で議論を行っていきます。

本日のいただいた議論でいきますと、一つ大きなテーマは、持続可能かということだと思います。一時的に力を入れ施設誘致などを行っても、その後いかに地域住民と行政が一体となりその地域で継続していけるかがポイントになると思います。この部分をしっかり先進事例から学べれば次の会議も田原地域により実行的な議論になると思います。本日の発表は動画配信をし、より多くの方に見ていただきたいと思っています。

これを持ちまして第3回田原活性化対策本部会議を終わらせてもらいます。本日はどうもありがとうございました。

次回開催の案内

第4回 田原活性化対策本部会議

開催日時：平成30年5月24日（木）午後7時

開催場所：グリーンホール田原 1階なるなるホール

予定案件：視察内容を踏まえた意見交換